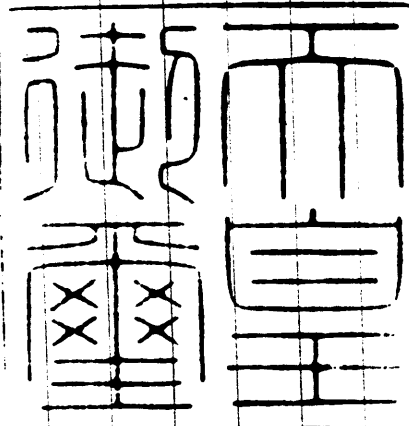


總 各省大臣

勅令第六十八號

朕昭和二十年勅令第五百五十一號「ボツグム宣言」
受諾ニ伴ヒ發スル命令ニ關スル件ニ基テ恩給
法ノ特例ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

裕仁



日 月

昭和二十一年一月三十一日

内閣總理大臣兼男爵幣原喜重郎

内務大臣 三土忠造

司法大臣 岩田吉造

外務大臣 吉田

學務大臣 芦田

大藏大臣 子爵海津清波三

商工大臣 小室多助

文部大臣 安倍能成

農林大臣 副島千八

運輸大臣 村上義一

賜金

六 扶助料

七 一時扶助料

第二條 軍人軍屬トシテノ在職年月數ハ第五條ノ規定ヲ除外ノ外在職年ノ計算ニ付之ヲ算入ス

第三條 軍人軍屬トシテ退職シタル者ニシテ軍人軍屬以外ノ公員又ハ公ニ員ニ準ズベキ者(以下文ニト解ス)ヨリ軍人軍屬ニ特官シタルモノニ付テハ其ノ特官ヲ以テ退職ト看做ス

第四條 普通員給又ハ扶助料ヲ受クル者ニ付第一條又ハ第二條ノ規定ヲ適用シタル場合ニ於テ其ノ者ガ文ニ於テハ其ノ遺族タルニ因ル普通員給又ハ扶助料ヲ受クルコトヲ得ザルニ至ル場合ニハ内閣總理大臣ノ定ムル所ニ依リ一時恩給又ハ一時扶助料ヲ給スルコトヲ得

第五條 痲疾ノ程度ガ令第二十四條ノ特別項症ニ至第六項症ニ至ル軍人軍屬ニ給スル恩給ノ額ハ第六十五條ノ規定ニ拘ラス但シ當時ノ階級ニ依リ定メタル別表第一號表ノ俸給月額ニ痲疾ノ程度ニ依リ別表第二號表ニ定メタル月額ヲ乗ジタル金額トス

第六條 軍人軍屬タルニ因ル恩給ノ額ニシテ海陸ノ程度令第二十四條ニ規定スル金額ニ二十年以上ノ軍人軍屬ニ給スル増加令ノ年々ニ付テハ前項一號表ノ俸給月額ノ三十分 一ニ相當スル金額ニ付テハ前項

第七條 軍人軍屬タルニ因ル恩給ノ額ニシテ海陸ノ程度令第二十四條ニ規定スル金額ニ二十年以上ノ軍人軍屬ニ給スル増加令ノ年々ニ付テハ前項一號表ノ俸給月額ノ三十分 一ニ相當スル金額ニ付テハ前項

ノ第七項准ニシテモノ又ハ傷病年金ヲ受ケタル者又ハ受ケベカリシ者ニハ法第六十六條ノ規定ニ拘ラズ第一號表ノ俸給月額ニ傷疾ノ程度ニ依リ別長第三號表ニ定メタル月數ヲ乘シタル金額ノ傷病賜金ヲ給ス

傷疾ノ程度ガ令第三十一條ノ第一目症又ハ第二目症ニ係ル下士官以下ノ人員軍醫ニ診スル傷病報告ノ令ニハ法第六十六條ノ規定ニ拘ラズ別長第一號表ノ俸給月額ニ別長第二號表ノ月數ヲ乘シタル金額トス

第七條 恩給ヲ受ケル者又ハ受ケベキ者聯合國最高司令官ニ依リ拘留又ハ逮捕セラレタルキハ其ノ間ニ給ノ停止ハ之ヲ差止メ又ハ恩給ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ喪失セズ

第八條 公務員若ハ公ニシテシテズベキ者又ハ此等ノ者ノ遺族聯合國最高司令官ニ依リ拘留又ハ逮捕セラレ有テ其ノ判決確定シタルトキハ拘留又ハ逮捕ノ時ヨリ恩給ヲ受ケルノ資格又ハ權利ヲ失フ

公務員又ハ公務員ニ準ズベキ者聯合國最高司令官ノ命令ニ基キ退職シタルトキハ恩給ヲ受ケルノ資格又ハ權利ヲ失フ

第九條 前條乃至第六條ノ規定ハ前二項ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

第十條 前條乃至第六條ノ規定ハ内閣總理大臣ノ特ニ命ズルニ於テハ之ヲ適用セズ

第十一條 本令ノ適用ヲ受ケベキ恩給ヲ受ケルノ權利ニシテ本令施行前給與事由ノ生ジタルモノニ付テノ特効ハ昭和十一年二月一日ヨリ進行ス

第十一條 本令ノ施行ニ關シ必クナル事項ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和二十一年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

第七條及第八條ノ規定ハ昭和二十一年十一月二十四日ヨリ之ヲ適用ス

本令施行ニ關シテ必要ナル事項ハ第一條第一項ノ規定ニ準ジテ之ヲ定ム

本令施行ニ關シテ必要ナル事項ハ第一條第一項ノ規定ニ準ジテ之ヲ定ム

本令施行ニ關シテ必要ナル事項ハ第一條第一項ノ規定ニ準ジテ之ヲ定ム

本令施行ニ關シテ必要ナル事項ハ第一條第一項ノ規定ニ準ジテ之ヲ定ム

本令施行ニ關シテ必要ナル事項ハ第一條第一項ノ規定ニ準ジテ之ヲ定ム

本令施行ニ關シテ必要ナル事項ハ第一條第一項ノ規定ニ準ジテ之ヲ定ム

本令施行ノ際ニ關シテ必要ナル事項ハ第一條第一項ノ規定ニ準ジテ之ヲ定ム

スコトヲ得

(別表)

第一號表

階等	大將	中將	少將	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准士官	下士官	兵
俸給月額	五〇〇圓	四〇〇圓	三〇〇圓	二五〇圓	二〇〇圓	一五〇圓	一〇〇圓	八〇圓	七〇圓	六〇圓	五〇圓	四〇圓

備考 軍人又ハ準軍人以外ノ第一條ノ者ノ俸給月額ハ階等ニ拘ラズ其ノ者ノ退職當時ノ俸給月額トス

第二號表

俸給ノ程度	月 數
合第二十二條ノ特別規定	八・〇月
第一項規定	七・〇月

